

## お茶の水女子大学文教育学部附属幼稚園

### 創立百周年記念式典を行なう

学長、市古宙三先生の式辞から次の式典が始められた。百年の長い歴史を基に百年の新しい幼稚園として発足すべきで、それに向かって努力する旨の式辞。

昭和五十一年十一月十四日(日)、大学講堂で、文部省来賓、旧職員、国立大学付属学校来賓、お茶の水女子大学来賓、同校付属来賓、当園卒業生、現在園児及びPTA列席のもとに式典が挙行された。

式典は、折悪しく雨天でその上肌寒い日になってしまったが、多数の列席者のもとにプログラムは進められた。

式典は三種類に内容が分けられ、午前九時二十分に校歌斉唱から始められた。昭憲皇太后御歌「みがかずば、玉もかがみも何かせん……」の歌は卒業生を昔にもどし幼児の世界にもどしてくれ、来賓者には百年の重みをひしひしと感じさせてくれた。明治時代、大正時代、幼児で通園していた白

髪老人、社会の要職につき活躍している方、などの顔ぶれは、百年の歩みをはっきりと脳裡に思いうかばせてくれた。

現園長勝部真長先生の式辞。学部長堤精二先生の式辞も、現在幼児がこの百年の歴史を受継いでゆくために、歴史の上に成長してゆく指針がそれぞれ折込まれていた。

次に保護者代表の祝辞に続き、園児全員段上にあがり、「まつぼっくり」「どんぐり」を斉唱し、そのまま退場して園児参加の式典は終了し、続いて次の大人対象の式典にはいる。

その間、「家鳩」「四季のうた」のテープが流れ、日本最古の幼児の歌を聞きながら、百年の長い幼児教育がひしひしと身を感じられてきた。

次に来賓祝辞として文部省初等中等教育局長諸沢正道先生は、百年前女の先生によって始められ、今にまでつがれてきた内容は偉大であること、幼稚園教育要領は他の小中高の教育要領よりはるかに簡単なことは幼稚園の先生が今、日教組でも盛に言われている創造性、工夫力などをおおいに働かせる事ができるという事だと言われた。

お茶の水幼稚園の百年はただ年月の経過でなく、その間、多くのえらい園長先生や、幼稚園の先生方がいらしたから百年が迎えられるのだ、またよき幼児の伸張はよき教師にある、と言う先生のお話には、現場の幼児教育者として、また現在の当園の教員として心にいたく感ずるところがあった。

全国国立大学付属学校連盟幼稚園部会

長、堀哲二先生からの祝辞をいただく。堀先生は旧職員代表として祝辞をいただいた堀七蔵先生の御子息にあたられ、くしくも同席された。

堀七蔵先生はこの三月で九十歳になられる先生で、朗々たるお声で、先生と共に百年の歴史がある如く、先生が明治四十三年四月に東京女高師に奉職されてから長い長い歴史のお話を熱意をこめて話され、さながら生き字引以上のお話と伺い、特に関東大震災の頃の状態を細々と語られ、歴史と、人物と、変遷とを現実に見せられ、参加者一同驚異であった。

同窓会代表の祝辞は、同窓連絡会から桃井タミエ氏、附属幼稚園同窓会のちぐさ会表で平松直子氏、東京女高師保育実習科、後の幼稚園教員養成課程の同窓会であるみどり会代表山村きよ氏が、幼児教育者養成の立場から、百年の歴史をかえり見つづつ現代に大切な、また必要とされている指導

者、よき指導者を是非要望すること、それにより幼児教育の発展が左右されることを熱意ある、お話というより願いをこめた訴えのように話された。

いよいよ当園卒業生代表の祝辞、市原豊太氏、久保亮吾氏いずれも社会的にも現職で活躍していられる両氏は、幼児期には何も覚えていない方や、細々と覚え、思い出すことを楽しんでいる方、これらのお話を何うにつけ、百年の長さは何か縮められたような錯覚も感じられた。市原氏は昔幼児の時歌った歌を自ら伴奏なさり、歌われた。偉大なる学者も一瞬幼児にもどられたようだ。

その時、参加卒業生もみな同じ気持ちになったのか、一幼児（卒業生の年輩者）が段上にあがり、マイク片手にいっしょに歌ってくださったのは、昔も現在も幼児の姿は同じというような、さながら保育室を思わせられた、たのしい一時だった。

一応第二の式典はたのしい雰囲気のうち  
に終り、第三の記念演奏に移り、卒業生安藤政輝氏、牧瀬裕理子氏の筆曲と、江戸京子氏のピアノ独奏に耳をうばわれ、輝かしく意義ある式典を終了した。

当幼稚園の百年は、幼児教育の百年でもあることは衆知で、古人の偉業により現在に発展し、指導的位置にあったが、これから百一年の踏出してその重責が担えるかを深く胸にきざまれた感がした。過去百年は、現代文化の発達している今でも不可能などと思われるようなことをやって来られた大先輩に敬意を捧げると同時に、感服ばかりでなく、先輩の偉業の上に範を置き、現代社会に、いや、未来の人間発達に貢献できる教育を踏出さねばと、血湧き……との言葉のとおり気持ちを味わい、百一年を一步踏出したいと思う。（堀合文子記）